



きよみずでら

清水寺は、どんなお寺なの



さかのうえのたむらまる

坂上田村麻呂が建てたと伝えられるお寺で、「清
水の舞台」とよばれる本堂が有名だよ。

清水寺は、京都市東山区、清水山（音羽山）の中腹にある、北法相宗の本山です。「清水の舞台」とよばれる舞台造の本堂が有名で、西国三十三か所観音霊場の第16番札所、京都観光の名所となっています。

坂上田村麻呂が建てたと伝えられる

798年に坂上田村麻呂が、延鎮という僧を応援して、十一面千手観世音菩薩像を置くお堂を建て、清水寺または北観音寺とよんだのが始まり、などと伝えられています。

ほかのお寺と争って、たびたび焼かれた

清水寺は、奈良の興福寺に所属し、興福寺が京都で勢力を広げる拠点になっていました。ほかのお寺と争いを起こすことが多く、そのことが原因で、たびたび焼かれました。特に、初めは興福寺に所属し、のちに比叡山延暦寺に所属した祇園感神院（今の八坂神社）と争うことが多く、興福寺と延暦寺の争いに発展したこともあります。976年には、大地震で建物がたおれました。

いろいろな文化財がある

今の本堂（国宝）は、1633年に徳川家光が再建したもので、中には平安時代初期の本尊「木造十一面観音立像」（重要文化財）が置かれています。堂内にたくさんある絵馬のうち、末吉氏と角倉氏が奉納した4面の「渡海船額」（重要文化財）は、江戸時代初期の海運の資料として有名です。奥ノ院は、本堂と同じような舞台をもち、そのがけ下にある「音羽ノ滝」は、水が清らかなことから、清水寺の名前のもとになった、といわれています。